1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570101693		
法人名	一般財団法人 弘潤会		
事業所名	グループホーム ほのぼの小松		
所在地	宮崎市大字小松1173-5		
自己評価作成日	平成29年7月7日	評価結果市町村受理日	平成29年9月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2017_022_kihon?true&JigyosyoCd=4570101693-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成29年8月3日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

食事を毎食手作りし、季節の物や彩りを考えながら見た目から楽しんでいただけるよう職員全員で取り組んでいる。また、週に1回は手作りのおやつ作りを利用者と一緒に行っている。掃除に関しても利用者と一緒に行えるような環境作りに努めている。
 個々の生活パターンを大事にしながら、その人のペースに合わせた支援を心掛けている。毎月1回は、各職員の持ち込み企画で外出や外食を取り入れたり、地域との行事等にも参加したり、同時に家族との関係を支援しながらいつまでも繋がりが保てるよう心掛けている。
 職員には、各外部研修に積極的に参加を促し、また、定期的な勉強会を実施しながらスキルアップを図り、お互いの情報の共有が出来るようにチームケアを目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念の下、ホーム独自の介護目標を職員で考え、認知症ケアに取り組んでいる。自治会の賛助会員であり、運営推進会議では多方面からの意見を生かした支援がなされ、地域との交流に努めている。看取りの実績も豊富で、かかりつけ医や協力医療機関、訪問看護事業所との連携も積極的に行われている。食事は職員手作りで、利用者と一緒に食事ができる環境である。災害発生時に備え各部屋ごとに利用者の搬送手段を表示し、外部の方でも緊急時に誘導しやすいよう配慮されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と事業所の理念があり、玄関とリビングの目につくところに掲げ、意識できるようにしている。また、理念とは別に職員にもわかりやすい様職員の目標を全員で考え作成し、定期的に見直しを行っている。	法人の理念の下、全職員で話し合い、具体化した介護目標を作成し実践につなげている。また、時代背景を考慮した理念になるよう見直しを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の賛助会員となり、地域の方との交流はある。 自治会の行事に利用者と一緒に参加したり、近隣のお店も一緒に利用している。	自治会の賛助会員として加入し、地域のイベントや防災訓練などの行事にも積極的に参加している。近くのコンビニへ出かけ、地域との交流にも努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地区活動に参加したり、近隣の事業所や地域包括支援センターの方々と「認知症サポーター養成講座」に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回奇数月に開催し、事業所の報告をしている。 家族にも交替で参加していただき、地域の方との活発な意見が出されている。	活動の様子や事業報告を行い、出席者から積極的に意見や提案がある。また、地域にお住いの認知症の方に関する相談もあり、双方向的な会議となるよう配慮されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に、管理者が行政機関とのやり取りを行い、相談をしながら、協力関係を築けるよう積極的に取り組んでいる。	管理者が市の窓口に出向き、制度面や運営に関する相談を行い、担当者との協力関係を築くよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加した職員が事例を交えながら勉強会等で理解を求めている。その上で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	外部研修に参加し、参加した職員が伝達研修を行い実践につなげている。また、外出傾向にある方などの意図を把握し、一緒に散歩に行くなど対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年開催される外部研修に参加し、各職員には勉強会等で理解できるよう努めている。 些細なことでも意識できるよう、防止にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修会に参加し、理解しているところであるが、職員に対しては学ぶ機会が少ない。 理解もまだ十分ではなく、活用できていないところがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や制度改定時には十分に説明をし、理解と同意を求めている。 疑問点や不安がある場合にも納得いただけるように説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からの信頼関係を築き、話しやすい環境を心掛けている。 運営推進会議や家族会にも参加していただき、意見や要望が言いやすいよう雰囲気作りに努めている。	家族の来訪時に意見や要望など、気軽に言ってもらえるよう雰囲気づくりに努めている。 家族会も設置されており、年一回は家族会を行い意見交換が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定例ミーティングの他にも、朝夕の申し送りや必要時には意見交換が出来る。 個別にも意見や提案を聞く機会を設け、反映できるよう努めている。	月1回の職員会議で、運営や利用者の状況など職員から出される意見や提案を運営に反映させている。管理者と職員のコミュニケーションも図れており、気軽に相談事など話し合える職場環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を行っており評価を行っている。それぞれの意見を聞きながら、やりがいにつながるような業務改善や職場環境改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会等の開催に積極的であり、参加できるような環境ができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や、地域の研修会や勉強会等にも積極的に参加し、交流を図る機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から本人や家族とお会いする機会を設け、いろいろな情報収集や、情報提供を行いながら、安心していただけるような関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	少しでも多くの話が聞けるように信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の要望をしっかりと受け止め、その時、その時に何を求めているのかを見極め支援することに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしさ」を職員が統一した考えを持ち、共に暮らすという関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、「一緒に支援していく」という気持ちで接しながら関係を築いており、いつまでも家族の絆が途切れないような支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族からの情報を基に、どなたにも会える環境を整えている。またその関係が途切れないよう支援に努めている。	家族の協力の下、通院やお墓参り、外食など個々の状況にあわせ、一人ひとりの希望を尊重した支援が行われている。また、なじみの方へ電話をし、近況や昔話ができるような支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握した上で、関わり合いが保てるよう、職員が間に入ったり、孤立しないような生活ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了しても家族との関係は大切にしており、連絡も取り合っている。時々、ホームに寄ってもらえるような関係性は保っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時には「センター方式」を活用し、職員全員本人の思いの把握、理解に努め、いつでも検討、話し合いができるようにしている。	日々の利用者の表情や言動の中から、意向の把握に努めている。また、家族から生活歴や趣味などの情報を聞き取り、思いや意向に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報や、センター方式を使用している生活歴やなじみの環境が継続できるよう職員全員が意識して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な会話や行動から一人ひとりの生活が把握できるよう、職員全員で取り組み意識してケアに当たっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所時から状況によってはその都度、本人や家族から話を聞いたり、職員との意見交換も交えながら反映できるよう努めている。	介護支援専門員を中心に、担当職員から日々の状況を聞き取り、介護計画が作成されている。また、職員会議で利用者の状態の確認や、意見交換も積極的に行われているが、記録に反映できていない部分もある。	介護目標の提示や担当者会議の要点など、日々の記録に反映できるような書類の工夫を期待したい。また、センター方式（認知症の人のためのケアマネジメント方式）を一部活用されているので、記載方法の更なる充実を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録を中心に、別に申し送り簿を活用しながら情報を共有し見直しに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族のその時の状況に応じて、臨機応変に対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりの地域資源の把握や活用は難しいが、自治会活動の参加や近隣への買い物支援したり、家族や友人との交流を支援し、生活を楽しくいただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	これまでのかかりつけ医の継続を支援し、時には管理者が受診に同行し関係作りに努めている。 また、適切な医療や家族の状況に即した支援をするため、必要時には話し合いの場を設けている。	かかりつけ医は本人・家族の希望である。協力医療機関も往診や急変時において、すぐに対応できる関係づくりに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、訪問看護を取り入れ、利用者の体調管理を行っている。 それ以外にも必要時には相談できるように24時間体制で連携が取れている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関関係者との関係作りに努め、情報交換や入退院時においては家族との連携も大事にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時から、その後も話せる機会を設け意向確認を行っている。最期まで家族の気持ちを尊重し、チームで取り組める支援をしている。	看取りに関する指針を明確にし、入居時に看取りの説明を行っている。終末期の対応については、その時々状況に沿って、本人や家族と話し合い対応ができるよう取り組んでいる。看取りの実績も豊富で訪問看護や医療機関との連携も整っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、緊急連絡網を備えその状況に即したシミュレーションを職員全員で行い、話し合いながら慌てないよう意識付けを行っている。 外部研修や訓練にも参加できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接の事業所や法人内での連携・協力体制ができており、定期的に利用者と一緒に防災訓練を行っている。 地域での防災訓練にも参加したり、事業所の訓練にも参加していただけるような協力体制を築いている。	隣接する福祉施設と協力し、夜間想定の大規模火災訓練を年に2回行っている。また、水害に対する避難訓練も計画されており、備蓄も整備されている。各部屋には災害時の移動方法(歩行・車椅子)を表示し、外部の方でも誘導しやすいよう配慮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりのプライバシーにも配慮し、その人の誇りを損ねないような言葉遣いや対応に注意を払っている。 過度な見守りを避け、さりげない対応や本人の気持ちに沿った対応を心掛けている。	利用者に対して職員は一人ひとりの人格を尊重し、援助が必要な時も本人の気持ちやプライドに配慮し、さりげないケアを心がけ、優しい言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態を見極めながら、常に自己決定ができるような場面を設けたり、声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを職員全員が把握し、希望に沿えるような支援に努め、業務優先にならないよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性にはお化粧したり、男性にはひげそりをしてもらったりとその人らしい身だしなみができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る人には、一緒に盛りつけたり、準備や後片付けをお願いしている。 また、週に1回の手作りおやつの際は、中心になってしていただけるような環境作りにも努めている。	利用者の嗜好や、季節の物を取り入れながら、各職員が週ごとの献立を考え手作りの食事を提供している。食事介助の必要な方もいらっしゃるが、同じ食事を一緒にすることができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりにあった栄養バランスを考えながら、必要時にはかかりつけ医と相談しながら支援している。 水分量に関してもしっかり確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時及び毎食後には口腔ケアを行い、一人ひとりの状態に合わせて仕上げ確認を職員が行っている。 必要時には訪問歯科医に相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、全介助の方もトイレ誘導を行っている。尿取りパット等の見直しを考えながら布パンツに移行したりその方にあった排泄支援を行っている。	オムツの使用を減らすため、排せつチェック表を活用したり、排せつサインを見逃さないようにして、昼間はトイレで排せつ出来るように時間誘導などの支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材や調理法にも工夫をし水分摂取にも気をつけている。かかりつけ医や家族とも相談したり、予防にも取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限り、その人のペースに合わせるため声かけをしている。現在は、入浴日を決めているが、強要はせず、本人の気持ちに沿った支援を心掛けている。	週3回は入浴できるよう設定してあるが、利用者の希望があれば毎日入浴できるよう配慮されている。入浴を拒む場合は曜日や時間をずらして、さりげなく声かけし対応に工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や希望により、休みたい時に休んでいただけよう支援している。空調や環境にも注意を払いながら、安心して眠れるよう対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が薬の理解に努め、服薬支援を行っている。勉強会や医療機関関係者の話や指示に基づき確認できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりに応じて、楽しみごとや嗜好品等を家族やなじみの人からの情報を通じて把握するようにしている。その楽しみごとが出来よう個別に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣を散歩したり、月に1回はドライブ等の外出を企画している。日常的に本人の行きたい時に行けるような支援も行っている。また、家族にも協力していただきながら外出ができるよう支援している。	ドライブでの外出を定期的に行い、散歩や買い物など日常的に外出支援に努めている。また、地域行事の参加や家族協力の下外食するなど、外出が出来よう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段は管理者がお小遣いとして管理しており、家族にも相談や収支報告を行っている。外出時等には、財布を持っていただいたりと一緒に買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取りつきや使用は自由にできるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温や季節に応じて、居心地良く過ごしていただけるよう、空調や光等配慮している。テレビや音楽の音にも気をつけながら、利用者が不快にならないよう工夫している。	採光も良く温度や湿度の管理がされ、利用者が居心地良く過ごせるように工夫をしている。また、生活感や季節感が分かるように、行事の時の写真や利用者の作品などの飾り付けがされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファで過ごしていただいたり、和室を利用したりと自由に過ごせるような配慮に努めている。自分の居室で過ごされる方も多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時になじみの物の持参を提案している。写真を飾ったり、家具を置いたり家族と相談しながら、本人の居心地の良い空間づくりに努めている。	利用者のなじみの家具や家族の写真、などが持ちこまれ、利用者が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりやエレベータの設置により、安心して自由に行き来できている。また居室前や共用場所にもプレート等を置くなど場所が分る様工夫している。		